

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- 膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、主治医に相談してください。
- くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

●血尿

尿が赤くなることがあります(痛みを伴わない場合が多い)。

●頻尿

排尿の回数が多くなる場合があります。

●排尿痛

急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。





そのほかに次のような症状があらわれることがあります。

- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい





これらの症状に気づいた場合は、主治医にご相談するようにしてください。

ピオグリタゾン錠・OD錠「ケミファ」を服用される患者さんへ

<ピオグリタゾン錠「ケミファ」>

	15mg	30mg
表		
裏		

<ピオグリタゾンOD錠「ケミファ」>

	15mg	30mg
表		
裏		

- コップ1杯程度の水またはぬるま湯で服用してください。ただし、OD錠は水なしでも服用できます。
- 1日1回朝食前または朝食後に服用します。飲み忘れた場合は、昼までであればできるだけ早く1回分を服用してください。

血糖値を下げる糖尿病の薬が、処方されています。

以下の点にご注意ください。

(この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせてください。)

■低血糖症状を起こすことがあります

- この薬とほかの糖尿病の薬(血糖を下げる薬)を併用した場合には、低血糖症状を起こすことがあります。
- とくにインスリンとの併用で多くなることが報告されています。

- 低血糖症状が起こった場合は、危険な状態ですから、軽いうちに治してしまわなければなりません。日頃から糖分（砂糖、ブドウ糖）を持ち歩き、すぐその場で糖分をとれるようにしておくことが必要です。**がまんしてはいけません。**

ただし、 **α -グルコシダーゼ阻害剤**〔アカルボース、ボグリボース、ミグリトール〕を併用している場合には砂糖は不適切です。これらの薬剤は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、**必ずブドウ糖**をとってください。

- 低血糖症状を起こした場合は、必ず早めに主治医に報告してください。
- **高所作業や自動車の運転等危険を伴う作業**に従事している時に低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

■ 低血糖症状とは

- 血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、動悸、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。
- はなはだしい場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。
- 空腹時に起こり、食物を食べると急に良くなるのが特徴です。

■ 低血糖症状の予防には

- 薬の量や飲み方は、主治医の指導を正しく守ってください。
- 食事療法・運動療法はきちんと守ることが大切です。
- 食事時刻の遅れ、酒の飲みすぎ、激しい運動、下痢などは低血糖症状を起こしやすいので注意してください。

本薬の服用により、むくみ（浮腫）や体重の増加がみられ、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状がみられることがあります。特に心臓の病気のある患者さんご注意ください。

■ 次のような症状があらわれることがあります。

● むくみ（浮腫）

むくみ（浮腫）のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状がみられることがあります。

● 体重増加

体重の増加がみられることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。

● 息切れ、動悸

労作時に息が切れたり、動悸がする（心臓がドキドキする）などの症状がみられることがあります。症状が進行すると、安静にしているにもかかわらずこのような症状があらわれることがあります。

< 特にご注意をいただきたい患者さん >

- 心臓の病気（心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など）を合併している患者さん
- インスリンを併用している患者さん

これらの症状に気づいた場合は、本薬の服用を中止し、主治医にご相談するようにしてください。